

佐々町立佐々中学校学校だより(HP)

「ときめき」第10号 令和3年7月9日(金) 文責 校長 井上博之

○ 長崎っ子の心を見つめる教育週間を実施しました

第8号でお伝えしていましたが、今年度の本校における『長崎っ子の心を見つめる教育週間』は、6/28(月)の「命の講話」を皮切りに、7/2(金)の生徒総会、7/3(土)の土曜授業(校長講話、命を考える道德、PTA学級学年懇談会)まで、期間中の全ての授業を公開して行う予定でした。しかし、県北地区の感染症の状況を考慮し、急遽3日の土曜授業等は参観をお断りすることとなりました。お仕事のお休みを取られていた方、授業公開等を楽しみにされていた方も多かったのではないかと思います。私たちも大変残念でしたが、生徒・保護者・教職員の安全を最優先に考えての判断ですのでどうかご理解いただきますよう、お願いいたします。以下に、教育週間の様子をお伝えします。

1 命の講話 6/28(月)13:45~15:35 体育館 「いのちを見つめる教育講演会」

- 題名“何よりあなたが大切”~お母さんはあなたを命がけで生みました
- 講師:NPO法人おなかの赤ちゃんヘルプライン理事 吉松眞理子 先生

3年生は全員体育館で講話を聴き、その様子はリモートで1,2年生の各教室にタブレットPCを使って中継しました。

人が奇跡の確率で生まれてくること、生きたくても生きられなかった命、生まれたくても生まれなかった命があること、東日本大震災での数々の実話、親が子を思う気持ち、ご自身の子育てのこと、大切なご主人がご病気で亡くなられた悲しみ、子供に励まされたことなど、1時間、子供たちに命の大切さを熱く語っていただきました。以下に、生徒の感想の一部を紹介します。

「命についてとても深く考えることができた」「命の大切さ、尊さ、重さについて改めて学んだ」「家があること、友達がいること、学校があることに感謝したい」「明日が来ることは決して当たり前なことじゃないと改めて感じた」「自分が望まれて生まれてきたという事が印象に残った」「自分は幸せだと感じました。たくさんの人に愛されて、支えてもらっています」「思春期真ただ中だけど、これからは家族との時間も大切にしつつ、自分のことも大切にしたい」「大震災の津波で死別する直前の子供が母に言った言葉~忘れないよ~に感動した」「先生のご主人が亡くなった時の話がとても印象に残った」

生徒はそれぞれの視点で生と死を意識し、自分や友達、家族のこと、これからどう生きていくのかを自分なりに見つめ、真剣に深く考えていました。

2 生徒総会

7/2(金)9:30~11:20 主会場:体育館 ⇄ 各教室(リモート中継)

今年度は、感染症対策を行いながら、会場となる体育館に、全ての生徒が一度は入れるよう工夫し、リモート+全クラス3交代制という形で実施しました。初めての試みで試行錯誤しながらよりよい生徒総会を目指して準備しました。

多くの議案があり、残念ながら予定していた一部の内容は時間切れで協議できませんでした。全体的には、新しい方法に勇気をもって挑戦し、困難を工夫して乗り越え、十分な成果を上げた生徒総会だったと思います。生徒会の皆さん、発表したみなさん、準備に尽力した全ての先生方、ありがとうございました。

また、昨年度に引き続き、佐世保ケーブルテレビの取材も受け、活動の様子が放送されました。

3 校長講話

7/3(土)9:10~10:00 校長室より全教室へリモート中継

本来であれば、週間の最初の日に体育館で全校生徒へ向けて行う予定でしたが、初日に外部講師に命の講話を依頼したこと、感染症対策を行う必要があることから、今年度は週間の最終日に、「校長室からこんにちは」という形で、全クラスリモート授業のスタイルで実施しました。リモートで言いたいことが十分に伝わるか心配ではありましたが、完全リモートにすることで、双方向でのやりとりが可能となり、生徒の意見を聞くことができました。結果的に、投げかけ、話のキャッチボールをする雰囲気です約50分の話ができました。内容は、「人間の最大の使命として、生きていることで100点」「他人の生きる権利を守り、応援することで+100点」「より良く生きる努力をすることで+100点」合計300点を目指してほしい。そして、QOL(生活の質)の向上を意識し、気づき、考え、行動してほしいと伝えました。



4 命を考える道徳

7/3(土)10:10~11:00 各学年、教室

今回は残念ながら公開できませんでしたが、各学年の先生が生徒の実態に合わせて題材を準備し、工夫しながら「命を考える道徳」を行いました。生徒たちは真剣に、答えのない道徳を深く考え、意見を発表していました。